

野田 九条通信

2014年9月 105号

「野田・九条の会」事務局

TEL 7122-0502

野田九条の会ホームページ

www43.tok2.com/home/article9nodana

一緒に行きませんか 10月18日 秋の講演会

戦争させない・9条壊すな！ 総がかり行動

とき 9月4日(木) 18:00~

ところ 日比谷野外音楽堂
~銀座デモ

集合 16:07 愛宕発
柏行き先頭車両乗車



川内原発再稼働するな！フクシマを忘れない！ さようなら原発☆全国集会&大行進

とき 9月23日(火・祝) 13:00~

ところ 代々木公園 ~デモ行進

集合 11:07 愛宕発
柏行き先頭車両乗車



今月の予定

9月7日(日) 13:30~16:30

DVD上映会 & 意見交換

「よみがえる戦場の記憶

~新発見 沖縄戦 600本のフィルム~

南部梅郷公民館 南地域九条の会

9月9日(火) 17:00~18:00

ボードで9条アピール

運河橋にて 野田九条の会

9月13日(土) 14:00~17:00

野田・九条の会定例会

櫛のホール集会室①

9月26日(金) 16:00~17:00

秘密保護法廃止署名行動

梅郷駅通路 秘密保護法廃止！野田の会

9月27日(土) 10:00~

DVD上映会 & 意見交換

「オリヴァー・ストーンは何を語ろうとしたのか」

北部公民館 川間九条の会

9月28日(日) 13:30~15:00

「国連・人権勧告の実現を！」集会とデモ

芝公園 集会広場(23号地)

沖縄と集団的自衛権に集中！

今年の野田・九条の会の講演会は、11月に沖縄県知事選を控えた沖縄現地から、川満彰さんに来ていただき、「沖縄県知事選挙と憲法・集団的自衛権行使をどう考えるか」を話していただきます。

川満さんは、名護市の教育委員会で戦争の歴史を調査研究している現役です。今年3月野田九条の会の沖縄ツアーの時3日間ガイドをしてくれました。集団的自衛権行使容認を閣議決定した安倍政権、それに対抗していくために私たちはどう行動したらいいのか、戦争に向き合っている最前線の沖縄の現状を知る必要があると思います。

講演と質問時間をたっぷりとりまします。そして終わった後懇親会も予定します。今から予定を開けておいてください。詳しくは来月配布のチラシをご覧ください。

日時 10月18日(土)

2時~4時半(講演・質問)

場所 北コミュニティセンター

ホール

(終了後、懇親会 場所未定)



講師の川満彰さん

平和のつどい。のだ 2014

満員の盛況で終わる

8月16、17日に行われた「平和のつどい。のだ2014」は、盛りだくさんの内容に2日間で約4000人の参加がありました。2日目の

に行われた孫崎享さんの講演には、160人の人たちが満席。集団的自衛権行使容認に踏み切った政権に危機感を持つている人たちがたくさんいることの表れではないでしょうか。

今年も朗読劇に参加した高校生が最後まで残って催しに参加してくれたこと、新しい参加者が多くみられた

こと、アンケートにびっしり書いてくれた方々など、これからの取り組みに期待されます。

お盆の時期に重なって、参加は無理だった方も多かったと思います。賛同団体、広告への協力企業の方、バザーへの品物提供などみなさんのご協力ありがとうございました。



九条の眼 原発は動かしてはいけない

◆ 4号機の核燃料プールは危機にあった

日本のマスコミはあまり報じなかったが、福島の事故について反原発の立場に立つ研究者・技術者や海外メディアが最も恐れていたのが4号機だったということをご存じだろうか。4号機は3月15日に爆発して建屋はめちゃくちゃになり、使用済み核燃料プールは地上30メートルの所にかるうじて留まっていた。そこには使用済みの946体を含む1,331体の核燃料が存在し、なんとセシウム137の量はチェルノブイリ事故で放出された10倍以上だという。あの頃は余震が多かった。支えている鉄骨に損傷もあるプールはいつ落ちて来るとも限らない。全電源喪失で冷却水の循環はできず、放出される放射能を閉じ込める建屋もない。守っているのは今ある水だけだが、蒸発するのは時間の問題だ。地震でプールにひびが入るか、水が外へ投げ出されたら一巻の終わりである。菅首相が原子力委員長に「最悪のシナリオ」を作成させたのもこのためであった。



◆ 原発の危険な状態は今も、今後も…

なぜこの話をするかといえば、今も危険な状況はあまり変わらないからだ。日本全国の原発17か所で保有している使用済み核燃料は19,000トン。世界で3番目に多い(2007年末時点)。原発の機種によって多少の差はあるものの、使用済み核燃料の危険性は4号機と同じで、地震、津波、噴火、テロ等々の脅威に晒されていることに変わりはない。さらに核のゴミの処分問題。世界中でこれを解決した国はないし、日本学術会議も2回にわたって「良い解決方法はない」旨の検討結果を発表している。全国の原発には使用済み核燃料がプールにいっぱい貯まっていて、平均してあと数年しか使えない。これでも安倍政権は原発推進なのだから、考えは事故前と全く変わっていない。

IOC総会で安部首相は「(原発は)コントロールされている」と明言したが、この嘘は今やだれの目にも明らかだ。これまで何回もあった汚染水漏れに加えて、凍結止水は3カ月以上たっても氷の壁ができない。7月からは大量の水を投入したがこれも上手くいかず

今度はセメント投入だそうだ。原子力資料情報室の伴共同代表によると、毎日300トンの汚染水が原発敷地内を海に出ていると言う。東電の発表によると、濃度が高い井戸では1リットルあたり60万ベクレルのトリチウムが観測されているので、最悪だと毎日1,800億ベクレルのトリチウムが海に出ていることになる。



◆ 画期的な大飯判決

「何とかならないのか」と多くの国民が苦悶する中、一筋の光明—大飯判決が出た。

福井県の住民らが運転差し止めを求めた訴訟で、福井地裁は定期点検中の2基の再稼働を認めない判決を言い渡した。樋口英明裁判長は「(住民が)生命を守り生活を維持する人格権の根幹を具体的に侵害する恐れがある」とした。

判決では、生存権と電気代のコストを並べて論じること自体が「法的には許されない」ことで、原発事故で豊かな国土と国民生活が取り戻せなくなることが「国富の喪失」と指摘。福島事故は「わが国が始まって以来、最大の環境汚染」であり、環境問題を原発推進の根拠とする主張を「甚だしい筋違い」と断じた。

また、「原発の稼働は、法的には電気を生み出す一手段である経済活動の自由に属し、憲法上は人格権よりも劣位に置かれるべきだ。自然災害や戦争以外で、この根源的な権利が広範に奪われる事態を招く可能性があるのは原発事故以外に想定しにくい。」と述べ、「地震大国日本で、基準地震動を超える地震が大飯原発に到来しないというのは根拠のない楽観的見通しだ」と断じた。

関電の「堅固な施設は必要ない」との主張に対して、「国民の安全が何よりも優先との見識に立たず、深刻な事故はめったに起きないだろうという見通しに基づく対応」と事故前と同じ考え方を批判した。「福島原発事故後、(司法が)判断を避けることは、裁判所に課された最も重要な責務を放棄するに等しい」と述べ、原発の新規制基準についても「裁判所の判断が及ぼされるべきだ」と指摘し、司法の独立性を宣言した。